

日銀の視点

日銀では、「にちぎん」と題する広報誌を3カ月ごとに発刊している。政策・業務に関する解説や最近の取り組みに加えて、各分野で造詣の深い方々と役員との対談なども掲載している（元スポーツ選手や、音楽家、俳優にご登場いただくこともある）ほか、写真や絵を多く交えて、リラックスメンとしてお読みいただける冊子となっている。日本銀行ホームページにも、バックナンバーを含めて全て掲載している。普段日銀と接点がない

日銀水戸事務所長

上野 淳

地域の底力発揮に期待

い方々にも、ぜひ一度、目にしていただけるとありがたい。ところで、その「にちぎん」には「地域の底力」というコーナーがあり、全国各地のまちづくりや地域の振興という

テーマで、毎号一つの地域の取り組みを紹介している。過去には本県のひたちなか市が取り上げられたこともある（2017年冬号）。人口減少、少子高齢化といった本県も例外ではない課題に取り組んでいる地域の例も多数ある。こ

れらを読んで、私なりに感じたことを申し述べたい。まず第一に、取り組みが実感を伴った地域では、危機感や問題意識を、リーダーが地域住民としっかり共有している。決して簡単なことでは

第二に、多くの事例では、自らの地域の良さを改めて明示的に認識し、それを生かす取り組みを行っている。かつて人口減少率が全国4位であった北海道下川町の方は「この町にも宝物はある」とおっしゃっている

（21年冬号）。また、外の人の目も有用であり、兵庫県丹波篠山市の方は「都会の方から、自分たちの住んでいる土地に普通にあるものの良さをたくさん学びました」とおっしゃっている（20年冬号）。第三に、取り組み内容としては、農畜水産物のブランド化、販路拡大、移住・アウトドア需要の取り込み、歴史遺産の活用など、本県内のさまざまな地域でも行われているものも多い。決して斬新なものばかりではない。一層に感じた。その実現に向けて何ができるかが重要で、地域ぐるみでの本気さが工夫・アイデアを生み出している。

（次回は8月13日掲載）